



繪本
豐臣
勲功
記

五編
九

2209
49



門 遠 13
 2209
 卷 49

繪本豊臣勲功記五編卷之九

目録

鴻左近智勳主馬いまたさえんのちまをまさあててあうまんのまうまを兩全謀

属陣あがちまひふねんを法螺ほり嶺のり

日向守ひなたのり於殿のとの下賜したまは將軍任しんをまか

属許あしを地ち子こ後のち

豊臣記五編卷之九

長秀聞大變於鹽杜我中

属 孫六踰踊

織田信澄據法趣大坂城

属 上田擊平之



會本豊臣勲功記五編卷之九

江戸 八功舎 徳水剛補

清光近智勲主為西全謀属陣法螺嶺

其家にして良臣ある一身四肢此あるが如し。手足みんを身成有一と

河こをさるべし。茲に和川郡山の城を筒井順慶といふ侯に治理し精し

らされども。臣家に近道者近あるが如し。國家不恙をかりしこと。強子良臣

此徳ふあそあき。然る不先秀遠順慶を自前以せましく思ひたれば。故後大

八郎利次の内番か。派使者として。糧多し。納齋せ。郡山へ遣し。たり。丹も先

秀と順慶が交情。深き不極を祝は。過半元徳二年の十月。松永澤正保成

として。明智秀秀に推挙。小より順慶。うれ。滅亡たり。遠功を。弥。増し

て。大和の國主とあら。め。恩義。明智に有ぬ。是より。光



会本豊臣勲功記五編卷之九

秀と師兄の如く教ひたる由急遠遭も他家より先に筒井を自方以属
 しめんと。今使者をりく況徒んたる使節に役せし大八郎種く此魂婚
 と出してのち使節を伸て言を申す。新當家自方する上ハ従来徳とる
 和州ハ勿論それらうハ小紀伊和泉の二州一國相派らる三箇國の主と
 らしめん。此我を合とあらせられ速に出系ましく万端軍務政事等と
 扶助しめたる願さ申しにと言遣しけり。と聆く順慶心ハ悦喜し。是時
 家長國士皆召集め。まづ使者大八郎を厚く饗應出系まじき評議に造
 る。彦子筒井の謀士清左近之臣友行といふ勇まあり。享年四十二歳小
 して寗威管仲に比さるる器あり。まづ松倉右近務重といふも
 丸近に次ぐる才子なり。此ハ享年六十一歳。勝たるの翼にもさるる
 顯たるの籍にもさるる。左近ハ六十石。右近ハ七十石。時に松倉右近進出はさるるく右近

以今譯して。今日明智が朱使の言詞。家以利ある申すかれども。夫に遠
 する逆人なまを。かどる長久の人ありんや。増く織田家に氏族多し。事
 成りては。と難うも。決して先秀に勤むる譯ハ。所至用よハと。保る色
 なく。疎養ハ然ども順慶。三國の地を分與さる。其一言に心速く。要
 時沈吟の神ありし。満座の諸士もあは。利慾を惑えられ。筒
 井家の繁昌遠响なり。と明智小治郎も。の詞を盡し。只願是は。初め
 たり。順慶大に悦び。發光秀に勤む。と高誠一決かさん。と。時ハ危の
 座上に。疏か。清左近進出。發光秀に勤む。と。高誠一決かさん。と。時ハ危の
 ども。家國を全ふるに危ふ。まづ明智に勤む。と。初め小治郎も。を
 く。悦喜し。此地使者を呼出。剛勇健など多く。納收せ。勤心のより。返
 言して。大八郎を返し。然して。后は。松倉右近。清左近。進出。言々



豊臣巴五編卷之九



島左近主を
勸め假小
光秀小
易す

豊臣巴五編卷之九

中。是下が心中に謀る所定て換陵の事あるべし。當き九近うち
 燕頭是下の言に秋毫たぐひまら。主君をりて病氣と流布を不
 時日抵達延。然して必竟せる機會に八幡山まぐ出陣をせ。彼地の
 内隨一の要崖にして。事試する不極めてす。暫く彼軍に立陣し
 世の傍方を控まら。今光秀が威風盛んなりといふとも。原是君を
 したる。天に叛くの逆臣なり。榮あるともいつく滅ぶる期あり。若る不敵因の
 一門家族各虚弱たるにせよ。臣家は羽柴秀右衛門。從來榮が行状
 偵察する。明智と同日に論まわ。秀右衛門都の機動をさうを。中國の
 陣を退拂ひ。軍結かりとも此登り。至若此布軍して。光秀は攻人
 と必死なり。然るを其討逆方より。荒原守に内應して。逆臣の
 翻邊攻まるものなり。大功を顯を盡し。言を不順慶頭はあり

然るに七日日向守ハ軍略殊ニ富されば。あが羽柴に軍と芳さ。光秀
 法勢なる。自亦加勢するものなり。自方ハ大軍秀右ハ長途に
 疲き。僅の自勢。其戦りて登来るとも。後ハ毛利の大敵あり。若し長
 け。變亂ありて。大は恐怖を懐き。將率奔り。銳氣も折け。始の
 如き方。似て。我んこと思ひもあら。其虚を伺ハ。羽柴ありと
 も。何ぞ難しといふ。應さ。後氣も言。近者近威。威極ひ。遠
 以言を次助で。曰。若者。玉も。や。秀右。三年。之本。を攻る。の軍。ハ。毛利
 之家。も。兵糧。運。送。せ。た。術。を。失。ひ。を。取。落。去。の。計。識。せ。んと。神。も。及。ま
 ら。ぬ。料理。あり。佐。長。公。此。か。さ。る。後。ハ。荒。川。に。務。業。あり。ん。や。後。あり
 羽柴秀右ハ。天下。小。敵。か。と。謂。つ。や。加之。軍。ハ。惣。て。忠。義。に。憑。て。起。る。外
 諸。侯。之。群。衆。向。て。應。じ。水。の。東。は。流。る。如。く。拓。き。れ。ど。も。羽。柴。下。風。に。臨

属せんを疑ひし。然いおきとも今果日入道殿の沖心氏寧かじめん
 事を善り。左右の手をて明智と羽柴とあひがく棟指(右子左的)外
 れざる。万彬(子)とと。清松余共(子)多(子)吟(子)これバ頂慶漸(子)會(子)得(子)
 て其高城(子)あ(子)使(子)改(子)し(子)る。備(子)亦(子)汝(子)者(子)大(子)八(子)部(子)八(子)地(子)子(子)系(子)終(子)一(子)池(子)帰(子)り。
 け時(子)光(子)秀(子)七(子)日(子)法(子)じ(子)し(子)の(子)日(子)限(子)中(子)滿(子)る(子)是(子)バ(子)筒(子)井(子)分(子)返(子)様(子)の(子)赴(子)を(子)仔(子)細(子)に(子)披(子)露(子)
 安(子)と(子)ま(子)て(子)系(子)終(子)小(子)より(子)系(子)内(子)の(子)用(子)意(子)と(子)云(子)筒(子)井(子)分(子)返(子)様(子)の(子)赴(子)を(子)仔(子)細(子)に(子)披(子)露(子)
 ま(子)う(子)と(子)成(子)所(子)光(子)秀(子)も(子)甲(子)老(子)を(子)れ(子)を(子)稍(子)沈(子)思(子)し(子)て(子)意(子)恠(子)し(子)や(子)原(子)来(子)筒(子)井(子)頂(子)慶(子)
 氣(子)質(子)の(子)响(子)よ(子)く(子)れ(子)を(子)知(子)ま(子)る。哨(子)使(子)者(子)那(子)城(子)子(子)行(子)り(子)の(子)あ(子)く(子)早(子)速(子)来(子)會(子)さ(子)
 べ(子)り(子)し(子)強(子)斯(子)量(子)の(子)大(子)事(子)に(子)日(子)限(子)を(子)死(子)を(子)疑(子)へ(子)り(子)な(子)れ。察(子)ま(子)る(子)と(子)は(子)清(子)松(子)余(子)
 陣(子)謀(子)と(子)免(子)え(子)り(子)病(子)氣(子)の(子)實(子)吾(子)城(子)決(子)ま(子)と(子)探(子)り(子)虚(子)實(子)の(子)本(子)和(子)を(子)固(子)め(子)
 ぶ(子)ん(子)を(子)あ(子)く(子)ら(子)び(子)と(子)潜(子)り(子)海(子)尾(子)庄(子)を(子)誘(子)を(子)招(子)き(子)内(子)藏(子)を(子)精(子)く(子)言(子)仰(子)め(子)筒(子)井(子)
 順(子)慶(子)の(子)病(子)氣(子)の(子)虚(子)實(子)着(子)徹(子)来(子)れ(子)と(子)命(子)じ(子)な(子)れ(子)バ(子)庄(子)を(子)誘(子)最(子)朝(子)膜(子)拜(子)し(子)と(子)致(子)

山(子)一(子)赴(子)さ(子)る。既(子)に(子)彼(子)地(子)に(子)即(子)り(子)な(子)れ(子)を(子)傳(子)た(子)近(子)登(子)く(子)も(子)免(子)知(子)し(子)意(子)に(子)頂(子)慶(子)の
 前(子)不(子)出(子)遠(子)遭(子)の(子)使(子)者(子)へ(子)大(子)事(子)を(子)り(子)君(子)の(子)病(子)氣(子)を(子)着(子)せ(子)む(子)ん(子)を(子)孫(子)計(子)成(子)就(子)さ(子)る
 か(子)ら(子)ば(子)と(子)強(子)く(子)勸(子)め(子)り(子)小(子)庵(子)後(子)書(子)に(子)ま(子)じ(子)属(子)斯(子)く(子)せ(子)と(子)揚(子)め(子)り(子)な(子)れ(子)バ(子)九(子)近
 が(子)言(子)る(子)河(子)の(子)来(子)に(子)或(子)は(子)薄(子)空(子)の(子)帛(子)と(子)云(子)ま(子)る(子)人(子)の(子)願(子)を(子)冀(子)み(子)さ(子)せ(子)傳(子)は(子)ま(子)ね(子)余(子)
 どう(子)ち(子)免(子)せ(子)或(子)は(子)滿(子)屋(子)風(子)の(子)時(子)に(子)藥(子)城(子)棄(子)る(子)鼎(子)と(子)置(子)避(子)邪(子)の(子)藥(子)餌(子)を(子)他(子)
 ま(子)を(子)董(子)ら(子)せ(子)系(子)終(子)醫(子)官(子)を(子)呼(子)集(子)せ(子)重(子)病(子)の(子)如(子)き(子)狀(子)以(子)做(子)す(子)若(子)し(子)七(子)死(子)近
 庄(子)兵(子)誘(子)り(子)對(子)面(子)を(子)し(子)て(子)其(子)意(子)を(子)伺(子)す(子)海(子)尾(子)も(子)禮(子)を(子)厚(子)く(子)し(子)て(子)遠(子)遭(子)主(子)君(子)日(子)向
 ち(子)大(子)堂(子)才(子)へ(子)成(子)就(子)ま(子)る(子)け(子)時(子)小(子)庵(子)之(子)當(子)家(子)と(子)り(子)て(子)才(子)一(子)願(子)の(子)自(子)方(子)に(子)か(子)ま
 く(子)只(子)願(子)頼(子)ま(子)る(子)と(子)の(子)と(子)ら(子)登(子)而(子)回(子)を(子)あ(子)せ(子)ら(子)ま(子)る(子)人(子)の(子)交(子)り(子)俺(子)們
 案(子)中(子)を(子)大(子)悅(子)これ(子)不(子)載(子)る(子)の(子)也(子)あ(子)ま(子)る(子)依(子)て(子)先(子)使(子)の(子)和(子)紀(子)泉(子)之(子)國(子)と(子)言(子)投(子)
 毛(子)楠(子)是(子)し(子)と(子)く(子)山(子)城(子)河(子)内(子)橋(子)津(子)加(子)へ(子)これ(子)を(子)廢(子)場(子)ま(子)る(子)と(子)云(子)加(子)之(子)西(子)家



豊臣記五續卷之六

五



筒井順慶を
 虚病うつろ臥ふさせ
 左近明智の
 使者しやを欺あざむく

豊臣記五續卷之六

五

熱懇れうへがら。備前ひやまゆさ人と日向守が来子とりのく人質とほ
 まわらひなれた。永く豪放に面置き。他年所居は所意に熱小童も考
 成場しまわらせ。防守に達の駒もあつた。何國もあまそ兼地の端に在任
 也。金糸玉枝の末座とも。かこをよとて奉て大慶はくまの。將亦度は所
 駕。今明日にも預えわし。亞て六所病氣にまゝなり。憚りかゝ小后を
 そくあつて。所居所の程重を伺ひまわらせ。来よとの至命。所寢室を拒
 免なく存するなれば。這條言はらきたし。伺を保羅漢をるあも。尤近心中
 に又多し。そと思ひ。始終それらの意射して。徐く深院へ投うらる。然不
 ぶ小頃。又の暑中。温袍の裝被したる。其刺小糸二など。壓する由。死
 軌此中に。て。蒸るも。うりの苦園。可堪。ごや。鹿從家。そ。此。退。し
 頭へ炎火。此。若。か。う。あ。る。を。移。さ。へ。命。も。あ。る。が。早。く。糸。を。括。き。よ。ま。れ。命

成かど。熱。さ。る。と。泣。か。如。く。怒。り。な。れ。ぬ。或。ハ。枕。を。抛。出。し。或。ハ。糸。の。襟。を。引。裂。れ。氣
 と。の。け。く。拵。れ。と。い。ふ。と。も。尤。近。が。敵。一。く。言。属。し。れ。ば。六。七。人。の。鹿。從。家。糸。の
 上。より。掩。蔽。て。些。も。後。め。ご。り。な。る。と。そ。然。つ。尤。近。友。所。投。來。り。使。者。の。意
 を。告。る。に。は。密。對。面。し。て。遠。苦。を。通。さ。ん。其。使。と。急。を。せ。り。も。海。尾。庄。を。請
 小。人。を。ら。る。と。あ。ら。う。極。く。係。り。し。事。な。れ。ば。あ。ま。ぬ。謠。言。被。り。ひ。散。し。担。人
 此。れ。之。相。言。て。無。射。も。明。に。知。り。な。れ。ば。傍。より。尤。近。料。酌。し。つ。落。る。病
 の。犯。れ。を。れ。を。言。語。を。絶。せ。し。次。亦。あ。り。榻。の。紀。振。ま。ら。安。の。は。然。り。と。い
 へ。と。も。今。鹿。翁。に。登。り。し。時。を。何。と。も。い。ひ。ま。ぐ。從。子。送。ら。ん。些。も。病。氣。平。愈
 以。條。ま。は。頼。ふ。上。洛。は。か。ら。る。里。万。事。此。熱。疾。ま。り。し。お。け。人。且。亦。明。智。將
 軍。一。解。譯。し。は。俺。們。が。國。中。の。兵。を。聚。集。め。八。幡。な。り。々。法。螺。が。嶺。の。絶
 頂。ま。り。出。陣。し。て。さ。う。さ。し。先。秀。公。と。頭。慶。と。い。今。は。殺。め。ぬ。許。文。な。れ

豊臣評五編卷之九

一切御心成勞煩せさせむべし。此の家合神事、その日の天下小功を達
 んこと、謀謀遠らそうちにあり、次て御家の清愛子をそ人等とてか
 るる条他家に務別遠方へ送せる條、何条用へ送る義は決石ふ
 て、雙方疑ひあふべし。遠方へ只願辭退し、まぬり、以て命斯の如くか
 りと。智台利辨れた近言、秋毫も差違あらず、されを了得れば、
 尾も漫こと親され、誠實とあり、く辭降り、仔細ふは、誠若るに先
 秀も遠小信を取、順慶が出馬を相等たり、瓦近の使者を返して、后入通
 殿を扶起し、沸たりある、陣方の汗を拭ひ、とく慰め、あはせ、お出陣
 の準備せん、とく、松倉清光陣を蒙里、其勢於合一万餘騎、郡山城拒発
 八幡山ある、法螺が嶺に陣を結、并も遠法螺が嶺といふ、山城の圍籠
 喜那石清水八幡に南ふ當りて、山城河内の境封する、要處を二の地所

あり、筒井に軍勢遠嶺へ出陣せしと、聆より、明智秀秀使取り、
 出陣し、勞を勤慰め、使と上各預し、やと伸裁る、誠清松倉、お是に、
 くる、順慶、繞ふ、使に、似れとも、い、歩行も相極、おそれ、お上、系
 緯、延、俺、此、地の、要處、に、結、出陣、し、つ、ま、り、あ、る、へ、只、御、自、方、に、澄、の
 る、り、い、ま、ご、主人、出馬、が、此、城、の、身、と、て、入、洛、し、明、智、將、軍、に、代、せ
 ん、こと、主、計、任、人、なる、の、甚、し、き、小、出、を、此、要、處、に、足、置、ぬ、ぬ、主人、の、出、馬、取、
 等、れ、と、此、条、よ、う、に、披、露、あ、れ、と、使、中、を、使、者、を、勤、さ、る、ゆ、由、順、慶、を、お、
 来、り、ぬ、條、と、思、惑、て、立、陣、し、ぬ、る、は、小、出、を、筒、井、主、從、今、の、心、も、然、と、遠、使
 頂、に、安、任、し、て、系、を、服、尺、の、眼、下、に、配、却、諸、方、の、通、音、を、見、聞、せ、し、思、
 て、小、巧、ま、り、

日向守於殿下、獨將軍任、馬、許、地、子、孫、

其も亦も震かりや實かりや。婦娥の后昇れ妻中て薬を竊る月宮に
奔り。月月中の仙は托と。月天子宮。楠遠都邪宮。宮のふにわか。明
智が猛威を以て。今冬月を逐かんとするに。是は遮るる輩ありや。備
も日向守光秀の除穢の際。日徳て翌日の冬内あるべきの通達既にあ
るが。縁てそれこれ準備し。殿上人の諸卿まを呪物疎ら。調を
し。七の寶八の珍。蓬萊方丈の生種物。山の像くふ。是は齋せ。水面難
穢。御子をも。門く戸に配。猶を。當天の天正午の十年六月七日。宣
ありて。まの光秀は。御子中將に任ぜられ。あまは。慎て。所請まを。縁
て。新子裁縫させ。する。括搜大政の橋布。此素袍。天衛馬帽子。黄金蓮の帯。刀
も。金毛廻曠を射るを。これ。小塚從后家子。明智此同族十三。誘。母。蘇

まつ。天。池。田。中。澤。比。田。天。野。並。門。村。上。進。士。三。枝。妻。本。今。峯。三。宅。飯。訪。
法。務。小。山。本。箕。浦。安。田。右。門。海。尾。柴。田。の。門。く。お。ま。ひ。く。は。花。号。際。る。素
袍。の。後。く。拾。轉。強。く。列。く。此。滄。ら。ふ。妙。心。寺。行。後。多。毛。園。大。納。言。樋。口。宰
相。を。是。を。導。り。た。ぬ。ひ。最。嚴。密。に。泰。内。に。昇。殿。許。さ。り。運。し。く。日。向。守。を。階
下。に。唱。さ。れ。一。條。茶。園。白。左。大。長。光。基。公。所。出。堂。お。ひ。く。吟。養。さ。れ。る。中。の。ひ
此。般。日。向。守。光。秀。坊。り。て。將。軍。職。に。補。せ。ら。る。律。種。を。奉。ら。る。一。升。も。將
軍。に。任。じ。ら。る。也。任。道。右。來。に。格。さ。る。と。の。り。に。中。途。浩。義。の。兼。回。豫。倉。の
右。大。長。總。進。補。使。に。任。せ。ら。る。也。相。續。で。治。國。た。り。か。長。承。の。頃。より。勤。れ
を。遠。職。を。と。て。挑。闘。ひ。帝。都。に。怒。懼。ら。る。邪。行。を。奉。止。旗。本。あ。る。也。強
以。強。く。武。將。の。衣。門。の。林。梁。國。家。を。掃。除。さ。る。任。じ。く。涉。ら。る。か。れ。ば。香
仁。勇。信。法。を。宗。と。し。て。努。く。志。り。言。さ。る。か。ら。ば。補。將。軍。に。倫。美。を。謹。で。頂



光秀室田みつひでむろお
 於て洛中あつてらくちゆうの
 地子銭ぢしせんを許叔ゆるしやく
 して諸人の心しよにんのかみを
 熟和じやくわ一いつは

豊臣五編卷之九



豊臣五編卷之九

義隆と一階七級下らせを先秀頼四領六
 志く。聲をゆりて依りて肩をさしりし牙旗頼也。物難なくも重た勅
 命を頂子義隆六十餘箇の神洲を奉りて平治しまわらせ。震
 襟を安んじたまひらんと勅書まじあはくを。列座に侍りまひ。三
 公九卿。後子良將よとあり。もあまふかの逆城大獲にも。王都を穢
 奉止かりと。惜まをる。御もかきぬ。响子園自種家公。勢を替て命せらる
 中。今日。内。の昇殿を許され。紫宸殿に。おいて拜さしめ。天蓋を揚るる
 きのと。あぬに。昨日より。所。過さく。こころ。せむを。遠。不。ふ。て。補。任。せ。し。れ。
 則地。亦。益。を。揚。る。り。頂。戴。あ。れ。る。の。命。あり。て。其。式。上。行。を。以。海。保。て。園
 白種家公。呀。哇。先。秀。將。軍。の。任。た。り。う。ハ。速。ま。海。の。勅。札。以。頼。め。福。風
 園の鎮護。ゆ。り。怠。る。と。な。れ。る。の。勅。書。あり。と。宣。ひ。た。れ。を。先。秀。頼。と。す。

體。以。投。地。自。の。面。目。を。施。し。る。遠。响。に。先。秀。も。是。非。に。頼。頼。以
 誅。し。た。く。種。く。心。腹。を。籠。り。さ。る。と。も。遠。事。遂。に。慥。得。以。勅。を。返。し。て。ま
 つ。も。悲。愴。多。く。伺。か。れ。を。極。務。く。奉。聞。を。と。す。と。領。受。し。て。七。選。散。し。け。る
 然。し。て。先。秀。禁。中。と。選。出。室。町。通。一。條。あ。か。る。衝。あ。く。將。机。に。置。腰。后。家。を
 集。め。く。令。以。侍。ふ。ま。の。之。宅。式。形。に。補。秀。朝。を。所。司。代。と。す。海。尾。庄。を。清。と
 街。巷。奉。行。と。す。地。下。人。に。金。銀。紙。多。く。布。與。し。う。ろ。永。代。を。地。子。孫
 と。さ。ら。く。免。許。せ。し。む。り。う。一。番。く。沙。汰。し。る。る。わ。ど。ふ。洛。中。の。高。買。を
 り。ま。ま。も。あ。く。諸。流。の。座。工。立。工。近。郊。近。里。に。農。夫。ま。ま。を。いと。切。替。あ。を。ひ
 と。し。悦。喜。表。上。紅。豆。飯。炊。け。を。樂。嬉。り。り。と。て。籠。候。を。と。係。家。を。あ。り
 門。く。戸。に。お。か。り。ま。る。万。歳。を。唱。たり。ま。つ。こ。旗。下。の。將。士。難。率。區。く。功
 に。隨。ふ。く。金。銀。衣。服。ち。刀。兵。具。殘。る。虚。隙。を。く。授。與。し。た。れ。ば。秋。收。の。聲

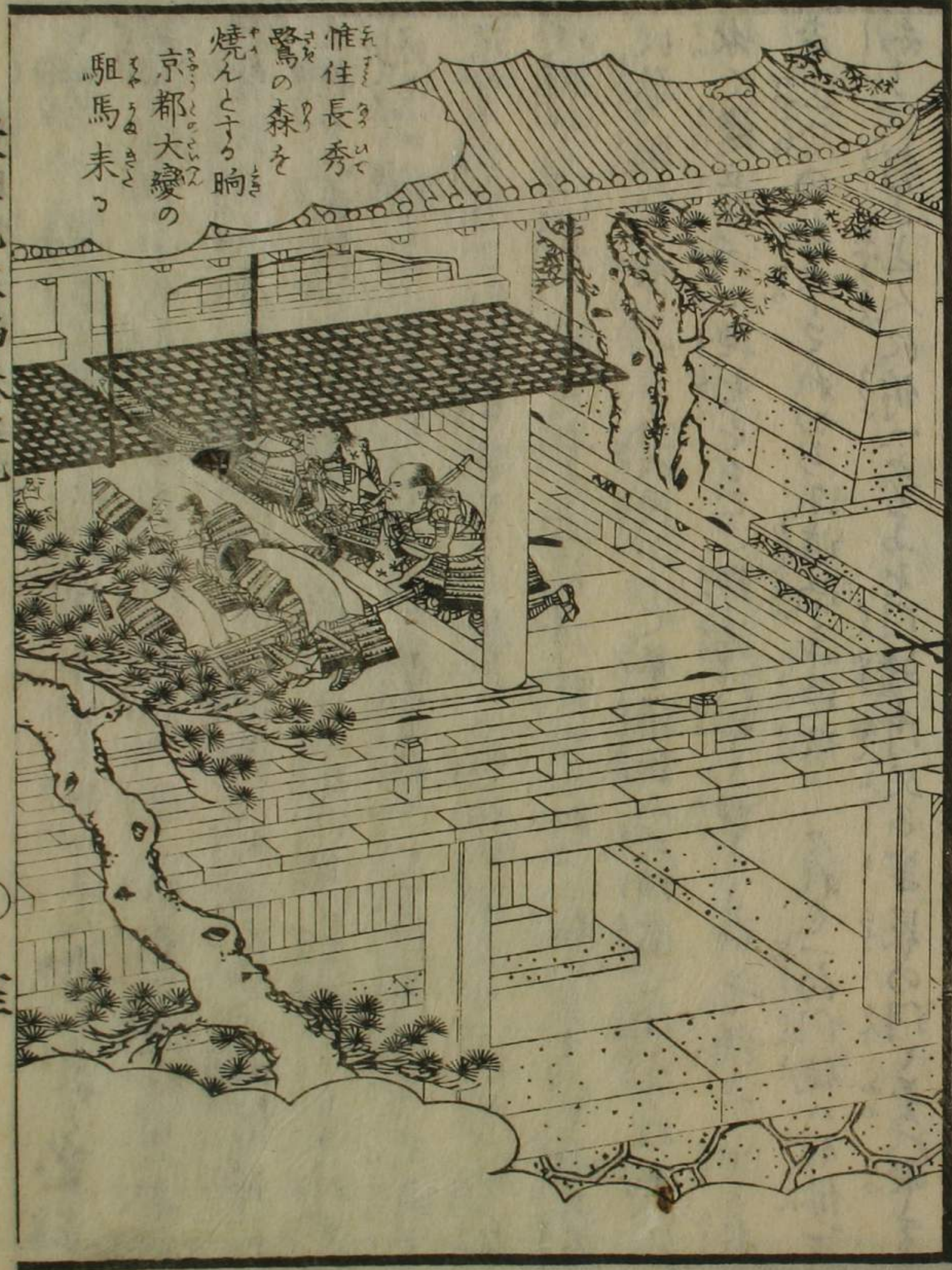
山河せも動ぶるまぐれにせは由断らば。樂しかりとを稱しける。

長秀聞大變於警社我中。属孫六滄踊。

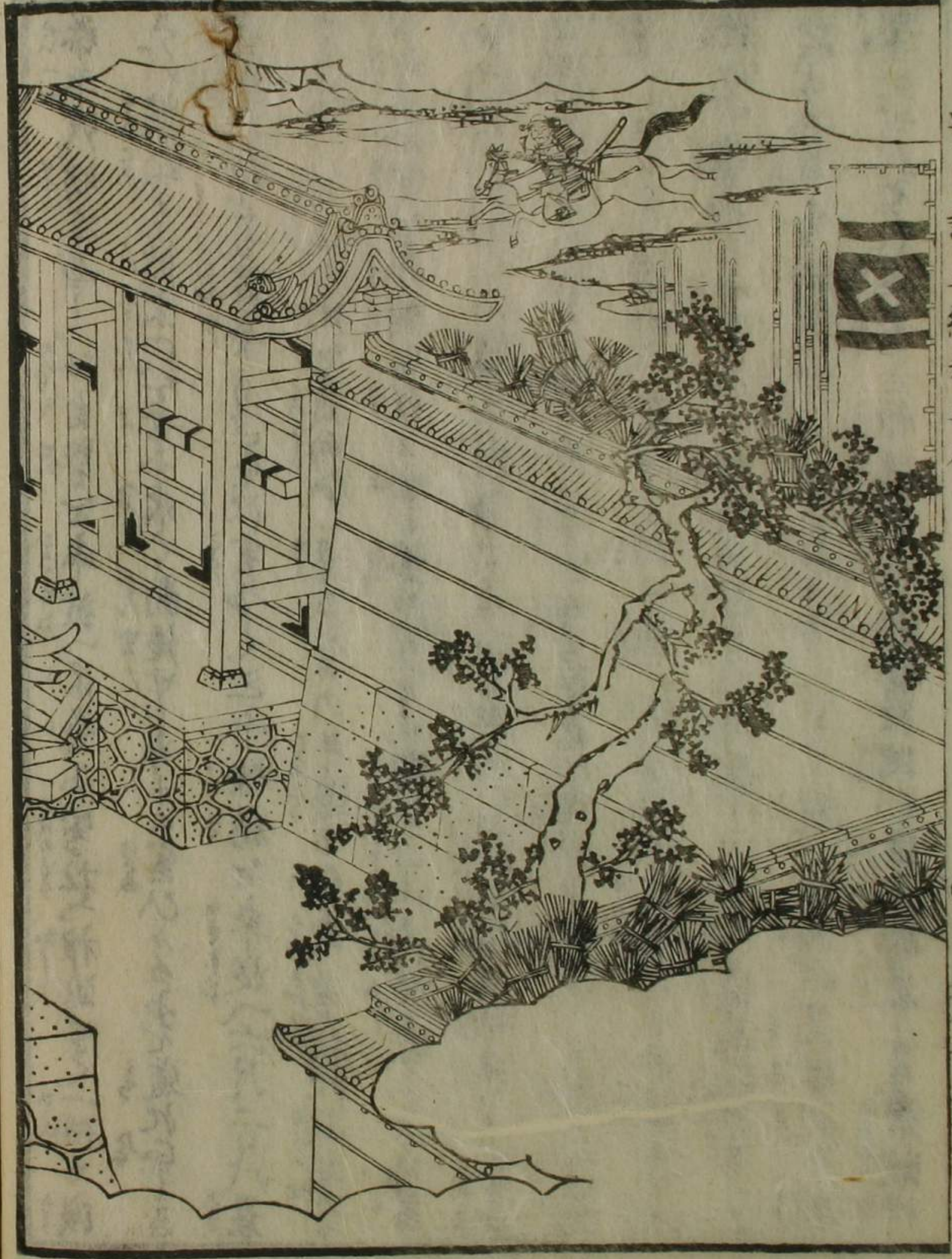
正法に愜美なり。唯天然の因果ありて。符合しはるをまこと宣なり是
の石大坂まご在令此所代りたる。系孫一出馬すしゆて。まづ惟任不希
危情門長秀を咤させし。密に命じ。あやう既に去ぬる天正八年勅命あ
りて。予と石山の奉願寺と和睦遂々れを。願如石山を遷去して。紀
別難賀へ到りしと驗。然るも新門路教如はおのこ。勅に背り父は遠く法
て大坂の城み出づ。遷去延引に置ふ系これ天子派茂し。且信長と歎
くれ。赤山言信に絶たる始終なり。然るに其后紀州なる。警社に案居る
く今門と懸集め。敵討の志。願をといふ。浩る惡逆犯罪の信也。其後
にして并置るを。余邪法成盛み行ひ。備氏を魔道に導き。信ひ天下

大坂首の石の石

暴平妖妨く。汝自勢を率従い。不意不警社へ推進せ。一個も滅
さば。焼殺し。彼宗門を世不承く断絶せしめよと宣ひたる。小光道に正しき
長秀をれども。君命より。まに言わく。三千餘騎を率従へ。六月二日。晨
まご。これ大坂の地を。費向し。是る。百の年。過る。當天。警社に。推進。なる
が。寺の。四方。と。お。圍。之。喊。せ。せ。と。舉。たり。たる。願。如。と。人。亦。父。子。を。と。め。率
衆。此。面。て。か。わ。い。ふ。驚。き。形。も。う。う。の。旁。形。に。一。心。不。礼。に。念。佛。し。て。進。兵
城。防。ぎ。ま。う。ま。ご。下。領。て。降。命。と。咤。ふ。を。ま。ご。俺。們。が。命。を。た。や。既。に。強。陀
降。した。る。その。ぞ。か。死。ぬ。る。が。何。の。畏。し。か。ん。孫。院。名。号。の。利。劍。を。ま
防。は。や。索。け。と。呼。ま。り。く。抱。矢。を。惜。ま。ば。防。城。し。た。れ。ば。進。兵。不。勢。あり。と
い。ご。も。命。を。う。げ。の。一。向。門。徒。に。敵。手。起。ら。ま。ご。近。づ。き。得。ば。先。遠。利。の。機
撃。に。せん。それ。兵。皆。と。惟。任。長。秀。指。揮。に。隨。ひ。遠。山。那。谷。より。樂。燒。沖



惟住長秀
 鷲の森を
 焼んとすの响
 京都大變の
 駟馬未ッ



豊臣評五紋卷之六

と駭く。哀集せ。焼崩さんと接する。顯如上人。河内父子。宰相
難士に。今も。是ま。河内堂の佛。小連。産。今も。連
此。續。後。名。等。る。活。靜。に。唱。へ。ま。ひ。令。終。の。時。取。り。ぬ。る。を。今。も。連
と。侍。自。言。に。不。思。議。の。事。を。我。等。に。大。坂。の。城。を。立。位。し。る。神。戸
信。孝。が。伴。う。る。羽。馬。来。り。て。昨。二。日。右。大。将。殿。河。内。子。連。長。明。徳。光。秀。が
た。の。ふ。系。統。よ。か。い。く。生。害。す。く。畿。内。の。動。乱。お。わ。く。こ。ろ。に。ま。づ。河。内。子
此。部。を。并。置。序。時。も。登。く。大。坂。へ。降。陣。せ。し。れ。よ。と。報。り。し。る。長。秀。大
に。驚。懼。し。陣。を。さ。る。其。後。し。て。單。騎。並。み。大。坂。當。て。馳。り。ぬ。是。に
依。て。進。兵。の。門。を。強。動。さ。る。と。沸。湯。に。如。く。燒。人。と。な。り。て。續。づ。る。は。亦。も。願
む。上。下。の。兵。率。し。れ。が。ち。不。慮。亡。き。退。散。し。し。る。を。一向。門。徒。ハ。不。信。を
知。く。彼。等。と。人。に。傳。へ。ら。る。あ。を。門。徒。河。内。子。宰相。の。門。と。著。し。懸。る

此の通称
世に伝へ
るに依り
て

意地。つ。何。事。の。起。り。し。と。怪。し。む。機。會。切。り。門。徒。の。通。信。子。く。も
駭。出。し。驚。き。走。り。て。漸。悦。び。舒。る。事。と。東。上。河。内。子。の。如。く。も
同。も。昨。日。京。都。本。能。寺。に。信。長。生。害。あり。ける。事。斯。報。し。如。く。も
り。と。肩。を。怒。ら。し。拳。拍。振。り。殘。却。て。忠。諫。る。遠。慮。に。在。り。聆。き。も。後。小
後。は。河。内。子。の。河。内。子。也。且。も。中。の。阿。彌。陀。如。來。此。河。内。子。の。傳。説
法。教。の。續。田。信。長。河。内。子。の。あ。ふ。信。命。し。し。る。は。今。の。世。界。に。亦。二。個。と。思。師
し。者。嘗。て。此。の。事。を。當。宗。門。の。衆。人。傳。説。し。あ。じ。と。誦。揚
流。傳。し。新。喜。獲。勇。也。道。理。の。差。小。鈴。木。孫。六。と。い。ふ。別。兵。河。内。子。人。也
二。の。河。内。子。方。も。今。日。畿。内。勢。と。強。く。我。ひ。左。の。脚。に。踏。む。吾。等。死。して。痛
く。難。免。也。起。る。と。の。あ。ら。う。れ。を。自。己。が。陣。に。退。却。て。善。生。也。在。たり。し
が。信。長。昨。日。明。智。が。あ。ふ。生。害。せ。し。と。聆。より。も。刺。の。傳。説。し。し。る。は。亦。小



信長の逝去を
 聴て歡喜の
 甚む鈴木孫六
 総跛踊と



疾は痛若らうち忘る。傍造にありたる羅刀杖とて、復御を拒擯
 しく。河原より雲に日の丸に候はる。軍扇親と推問さ。隻子に羅刀
 うち揮て。雲味とる聲にありしは、振起、呼妙、養とや。昨日は、曉天は、法敵
 ねらびて、宗門の末弘より、河原繁昌と、鶴後と、福ひかづらふ、隻御りて、最
 おうけ、ひふ、舞、なれを、聖人、河原、父子、候、叔、まの、せ、家、家、門、下、此、個、く、ま、で、合、く
 呀と、續、摩、以、声、の、夕、此、悲、嘆、ふ、特、易、就、ま、く、ら、を、聆、え、る、然、ハ、年、曆、各
 におい、く、紀、州、あり、ける、醫、杜、六、其、年、毎、の、六、月、冒、陰、波、瀧、と、絲、号、依、杖、重、て
 獲、と、し、それ、を、身、に、着、隻、御、候、を、さ、ら、め、陰、波、の、較、し、て、踊、る、あ、と、遠、台、例
 より、獲、る、と、う、や、遠、門、禪、の、周、り、河、法、此、邪、正、を、あ、ま、さ、ど、世、激、似、る、事
 此、あり、たり、同、國、高、野、の、山、中、一、事、の、思、材、あり、たり、て、泉、別、依、加、井、代、官
 松、井、養、周、法、印、より、武、士、軍、三、十、有、餘、人、遠、山、中、一、攀、躋、然、る、遺、恨、此

ある事、に、也、外、戸、内、戸、を、折、破、ち、或、ハ、佛、像、法、器、を、碎、さ、古、老、頑、學、を、折、擲
 し、さ、多、く、狼、藉、を、し、ら、る、を、一、邊、の、危、危、を、是、故、瞋、王、殊、せ、と、ん、ハ、あ、ま、り、か、げ、
 と、計、り、酒、宴、を、催、し、法、由、三、十、餘、人、を、大、に、款、待、爛、醉、し、たる、所、を、沈、視
 危、危、を、餘、人、推、進、て、一、個、も、強、く、は、撃、殺、し、たり、信、長、公、これ、を、聆、し、め、これ、大
 に、憤、怒、を、し、ら、ひ、野、山、を、攻、亡、さ、し、と、被、山、の、四、方、に、あ、い、く、借、塞、く、を、殺
 養、不、小、葉、さ、兵、糧、改、移、候、置、逃、く、軍、勢、を、當、向、と、せ、不、日、に、一、山、を、攻、陥、さ
 ん、と、分、據、專、り、ら、る、故、山、危、を、是、に、驚、懼、し、此、上、ハ、唯、秘、密、の、大、法、を、行、ふ
 て、信、長、の、命、候、所、を、如、比、と、瀧、山、の、危、信、悉、く、回、心、し、肝、膽、を、碎、く、行
 る、る、が、呼、怖、し、や、瀧、摩、煙、中、に、信、長、此、姿、の、現、を、々、々、が、全、身、益、に、深、強
 り、然、も、若、熱、心、を、相、繼、り、ら、る、是、三、七、日、の、満、ち、る、凶、年、天、正、十、年、六、月
 二、日、に、ぞ、當、り、たる

武田信澄據強越天坂城屬上田擊之

地を據む軍の持ると淹々自攻據むもの亡び易し。藤平孫次郎
 清の城主。武田七玄清信澄に放後守信秀の三男。武藏守信行が長
 子にして。信長公の甥なれども。信行叔父あるに依りて。信日弘治二年此
 既小殊せられ平ぬ。其駒七玄清信澄に於菊丸と稱せしむ。幼穉
 此男をりたるが。明智光秀あまは養ひ。然して后に破野丹波守眞正の
 表副と爲る其後請て。光秀これ婿とせり。今ハ尾ヶ崎の城主として十
 万石の領領たり。浩る親好のある所なり。同月三日光秀近士の某田
 藤清之をりつ。封書かきびみ。太刀黄金等を納齎せ。尾ヶ崎へ使者た
 らしめ。昨日既小信長父子を於よあつく。蚊子裸せぬ。此上もかを忘る。我ハ
 カハ勸せむを天坂安去の直城と爲し。近橋河の二國に大守たす

一むる一と指送る。信澄聆ておん小執比亡父の讒を報たりと。曙
 揚里を獲て起ると。光秀以勸せむと。是光秀の恩といひ。妻が嫁たる
 岳父なりと。某田を託し呼出。さぬくは養育して返書以遣一返一
 て后。請て信澄謀叛の由ありと。荒本家の某人の石山本願寺
 此漂泊士など。二千餘人。密に扶持し。大坂池田尾ヶ崎の邊に居せむ
 分。此地に居せむを呼集め。文軍車を高橋を。遠駒軍家津田與三郎
 清水加三清。酒を源右衛門。進むか。言一々る。遠駒日向助。信長父子を
 弑せしむ。信雄信孝を。めまわす。某田。將家。龍川。八人。吊軍を
 人をあはれ。然るに時。宣さじ。隨ひ。出城せし。系都。不登り。明智。力
 勸。ま。裁。目。示。遠。地。に。守。城。して。援。て。款。を。伐。て。裁。際。機。應。變。の。計
 識。あり。今。見。定。め。たる。事。も。か。た。不。系。終。一。登。り。玉。人。謀。思。慮。を。此

申すに及ばず一應諸方の軍勢を征集せしめ、當城に固對堅守せしむ。世間の勅許
 を窺ひぬと、勅めたるに依りて、衆議會斯むと一決して、
 暫く牢城をたたりける。然るに大坂の城中に、神戶信孝、惟任、長
 秀、中川清秀、集會して、明を伐て、君の吊軍をせんといふ。たやせん
 右や、したる人と、南畿區にかりたる代、惟任、長秀、進で謂らく、自思慮を
 るに、尼ヶ崎、此城、至七、長清、信澄、日向守、を奪ひて、然も又、さる武藏守
 長君に伐せたりしを、怒え、志をもく、其志見えたる、辨あり、くゞくを以て考
 らるに、遠遭の發動、は開る。信澄、うらひ、先秀に、前橋とらと、覺えたり
 事繁く、ぬ、今、此、際、不、推、進、て、休、一、日、と、勅、ひ、る、を、侍、從、信、孝、を、質、取、り、
 かり、た、れ、ば、あ、ま、り、と、り、自、方、の、利、を、以、て、猶、あ、や、が、ん、で、一、日、を、從、に、過、し
 ける。然ると、あ、後、一、信、澄、の、は、朽、木、六、九、清、の、旬、坂、丸、内、と、い、ふ、者、あ、り、し、が、主、人

信澄に、恨、あ、り、と、事、が、何、れ、と、か、り、し、機、會、を、伺、ひ、先、秀、を、擁、護、し、事、成、
 驗、出、し、密、使、を、大、坂、へ、遣、し、て、信、澄、明、智、に、勵、せ、し、始、終、を、詳、に、書、て、江、戶、に、
 長、秀、を、初、一、座、の、將、士、又、も、こ、を、信、澄、其、後、に、七、集、置、り、し、急、に、謀、伐、を、
 人、を、あ、ら、は、し、と、辨、め、た、起、を、神、戶、信、孝、言、々、を、申、す、今、猶、信、澄、殺、せ、し、釋、は、露、
 顯、せ、し、ま、る、後、に、も、知、す、。然、れ、ば、深、に、謀、練、ら、し、先、秀、殺、送、た、る、に、し、り、
 俺、們、氏、族、代、強、集、め、亡、父、君、の、吊、軍、を、管、掌、人、と、存、ぶ、る、に、依、り、高、禪、止、
 づ、き、思、材、あ、ま、り、登、り、來、降、せ、し、る、と、言、違、へ、た、と、い、ふ、信、澄、が、何、れ、疑、
 ぎ、ん、傳、を、怖、れ、し、る、と、其、响、力、士、を、伏、置、て、殺、す、と、い、ふ、の、か、ら、何、れ、難、
 き、事、か、あ、ら、ん、と、稟、を、ふ、各、會、結、受、し、強、に、發、し、其、義、志、を、申、す、と、い、ふ、由、
 地、不、那、嶽、へ、使、者、派、遣、し、如、先、の、源、才、を、言、投、し、り、果、して、信、澄、遠、藤、討、
 に、臨、見、し、て、大、坂、へ、赴、く、と、返、答、を、し、使、者、を、歸、さ、し、其、軍、勢、を、な、し、る、を、

津田与之并謀て曰危ひる。君方僅單騎にして。敵中へ執さるゝこと。薪
を薪とて屋宅の焼るは救ふ處なし。殊更至君は日向守の聲。君若て
おろし。また所身おれを。惟佐中川高山などり。智勇た。或士多かるもの
誠。疑がそやわろあく。難此集會こそ必定敵の計畧か。あ使して行
せり。あ敵の層にさ。客らに。小片至君の苗代として。大坂城へ。敵向
し。その虚實。誠疑なく。信者。長秀。西酒のうら。い。さ。う。一。個。の。刺。番。で。撃
つ。と。懐。使。め。く。い。な。れ。を。是。非。と。君。子。の。所。止。ま。る。べ。し。と。辨。り。か。と。別
氣。慮。の。七。雲。清。與。之。并。を。告。せ。坐。す。も。頃。ひ。は。汝。が。思。慮。の。或。士。に。較
氣。か。く。甚。き。を。つ。て。來。弱。かり。自。信。者。侮。せ。看。る。俾。ハ。物。見。より。猶。方。と
せり。從。令。い。か。る。難。計。誠。設。け。く。唯。に。敵。向。とも。中。執。事。此。る。あ。ん。
且。の。過。頭。來。且。使。者。に。信。澄。身。未。出。會。ま。と。と。雁。て。帰。り。と。る。その。誠。

信澄亦汝を苗代として。大坂城へ到らせん。猶も勇激なり。奉止る
也。その。其。の。之。を。い。は。し。め。た。る。に。後。ら。ぬ。り。也。其。根。張。も
破。こ。激。底。に。臆。病。未。殊。ふ。出。會。せ。と。ん。敵。軍。却。て。疑。む。を。起。し。唯。毛。雨。解
此。別。を。拘。め。ん。汝。母。切。痛。心。な。せ。唯。お。の。涙。う。新。曙。あり。と。く。自。代。我。慢。は。猶
勇。に。日。も。春。月。も。神。ふ。ま。る。最。暴。く。と。さ。む。か。く。強。勇。僅。小。三。十。餘。人。を。強。延
一。聖。天。又。日。此。外。漏。と。共。小。大。坂。當。て。登。里。た。る。然。わ。ら。ふ。大。坂。城。は。入。遣。た。る
後。者。の。立。歸。り。て。信。澄。ま。う。と。遠。城。へ。出。會。せ。り。誠。信。者。の。白。衣。先。其。準。儀
を。破。登。り。と。く。春。衣。を。脱。ぎ。山。陰。固。右。清。つ。の。二。人。に。命。じて。當。の。刺。番。と。さ
れ。を。定。め。一。廳。の。紙。門。後。に。三。十。餘。人。の。力。士。派。伏。藏。方。僅。や。逢。り。と。等。鬼
たり。若。せ。る。事。と。六。秋。毫。お。ろ。し。城。田。七。雲。清。後。澄。の。天。命。在。期。に。格。う。け
人。志。津。田。が。師。を。害。ひ。別。張。朽。本。自。坂。城。が。逆。心。を。り。七。秋。城。一。登。車。此



上田王水大
猛悍七兵衛
信澄を
撃つ

豊目言五續巻之九

九

露顯せし條之通りかたれば是も悟るべ自己が勇気投てて大坂の
 城へ入りし危くも本を傷うりけり其行程之遠くをゆく程を已に言
 ちぬ城を投り二の丸に登りたる後、秘して那したる處、山崎悉く出迎へ
 賓廳に請へ宿、暑氣れ回善終るところへ神戶信春実と出て、先秀
 為控れ織田信澄殺罪通す道かたせき流すべと指揮のち、膜
 汗いと、峯山崎制軍殿に破蒐たり。信澄心得を制軍令を返個を向款
 我陣をがら、聲烈敷て其の信澄が、身の一大事に登びたる七夜、兵に回
 く、投て、揚げやいと叫ぶ聲、ハ籠も裂るをりなり。それと、駭より、云、
 の廳に勤へる。二十餘人の勇士軍、其所主君の御身に危を、臨投て、投
 帮まりこん。懋めや、励めと声々に、呼りたり、喚りたり、太刀制軍、一度、突と
 斬て投へ、隔廳に、に、潜隊置たる夥れ、力士顯き出、兵若くを、固りし。

起合せりて、接たりたり。遠响、信澄の賓に、廳に、又、勅、烈しく、峯山崎と、
 竹破石の猛威を奮ひ、この綱、鈍み放吐りたり。又、後々地を、裂電、花の傳
 く。事、叫ぶ、色も、不、字、成、足、を、一、太刀、斬、結、ぶ、を、个、字、を、作、り、追、つ、之、指、三
 已、捲、ま、六、臂、れ、く、を、之、轉、修、練、を、抱、め、く、我、一、も、契、合、項、羽、に、比、ぶ、信、澄
 掌、を、殿、投、た、刀、籠、を、た、ま、へ、流、く、拂、さ、着、し、が、衣、右、邊、つ、う、丸、の、臂、を、血、相、瀾、く
 頑、剛、たり、遠、猛、勢、に、や、怯、ま、け、ん、山、崎、も、一、足、退、隠、し、着、投、穿、と、走、蒐、く、固
 右、邊、つ、う、右、の、肩、より、頬、骨、頭、へ、銃、突、流、く、頑、着、き、バ、眼、に、血、肉、漉、流、て、勅、力、自
 由、を、く、さ、り、た、れ、ハ、峯、も、山、崎、も、方、僅、ハ、登、危、ふ、り、り、る、其、期、に、一、上、回、主、水
 重、安、長、秀、の、長、家、上、田、孫、若、事、年、に、つ、う、十六、才、なり、とい、つ、とも、款、子、方、ら、ぬ
 勇、少、年、縁、て、を、や、用、ひ、た、ん、人、神、も、蒙、り、被、折、掲、去、太、刀、制、軍、聲、を、垂、
 廳、に、息、香、備、密、で、窺、ひ、し、が、斬、と、看、る、より、突、と、投、擲、逆、の、御、身、を、由

つゝ、強くは狼藉し、ゆひぞと謂は、藁地に斬る、藁を被、信澄怒て、一
 撃と斬投、主水が太刀を搦に、激塵ふかれと搦色とも。後、子畏し、
 水重安政、投ち刀のさかかづに、礎石を壓たる首楯より、猶法固推とも、突
 と、中懐、まをあそり、滑み猛き信澄も、驚と、かゝる、虚波沈視し、一旦、
 投、信澄が、臂面、両断、ふ斬、裂たり、是に、かど、か、の、場、さ、づ、き、其、信、息、絶、
 たり。上田、主水、大音、あ、ひ、く、鐵、回、七、去、清、信、澄、と、上、田、主、水、重、安、が、
 たりと、呼、え、る、に、ぞ、信、澄、が、
 惶、旋、回、を、擊、單、て、一、個、も、残、さ、ず、擊、投、り、其、日、の、午、を、過、る、當、天、遠、事、
 速、く、も、尾、ヶ、橋、へ、
 所、詮、主、人、被、
 同志、八百、餘、人、を、
 津、田、清、水、

るに、遠、响、光、秀、へ、紀、伊、郡、を、
 清水、海、の、八百、餘、人、遠、地、に、
 以、告、たり、
 後、意、の、三、人、
 津、田、清、水、

